

令和7年度第3回岐阜市環境審議会 会議録

(●…委員の意見 ⇒…事務局の回答)

<報告事項(1) 岐阜市環境基本計画の施策評価について>

(「資料1」に基づき説明)

- 施策3「生物多様性を保全します」の②自然環境保全活動団体の活動支援回数について、支援回数が減っているが、原因はあるのか。

⇒令和5年度に1つの団体が解散した。その団体は、毎月1回活動していたので、12回分の支援回数が減った。

- 市職員の方は頑張っていると思うので、単純に絶対数が減ったことだけでなく、支援割合のような数値を補足で付け加えておくと良いと感じた。

- 施策1-2「気候変動への適応」の②企業のBCPの策定率について、令和3年度の数値が9.0%であるが、具体的にはどれくらいの増加を目指しているのか。

⇒本市の別の部局が調査を行っていたが、令和5年度より調査項目をBCPに代えて、別の類似の指標となった。数値の増加を目標としているが、手元に詳細な資料がないため、改めて報告する。

<報告事項(2) 生物多様性アクションプランの点検結果について>

(「資料2」に基づき説明)

- 自然環境保全活動団体が1つ増えたことは喜ばしいことである。どのような団体が登録されたのか。

⇒青少年育成市民会議第3ブロックという団体が、令和6年度より環境保全活動を行う団体として新たに登録していただいた。

- 担い手づくりのために活動への参加者を増やすのではなく、団体を主宰する人をいかに増やしていくかが重要だと思うが、こういった取り組みや支援を行っているのか。

⇒生物多様性に関するシンポジウムにおいて、現在活動している団体を紹介したり、市の広報で団体の活動内容についての紹介を行うことで、周知を図っている。

- 担い手の主体が増えていくような施策が必要となっていくと思うので、何らかの策をお願いしたい。

<報告事項(3) 一般廃棄物処理基本計画について>

(「資料3」に基づき説明)

- 4ページの事業系ごみ排出量の目標値について、令和12年の中間目標値37,000tに対し、令和17年の目標値も同値となっているが、何か施策を打ち出して減量を図ることは考えていないのか。

⇒事業系ごみについては、人口減等の要因により排出量が減少する可能性があるものの、経済活動の状況によって排出量が上下することがあると考えている。

- ・現在、事業系ごみはおおむね横ばいの傾向であり、令和12年から令和17年にかけては、横ばい、あるいは、やや増加する傾向を示していることを鑑み、同様の値を目標としている。
- ・有料化も含め、事業所から出る紙ごみの減量などの施策を行っていく必要があると考えている。

- 市民目線として、事業系ごみの減量も図っていくことでモチベーションの上昇にも繋がるかと思

われるので、施策の検討をされたい。

- ・現行計画では、「1人1日当たりの家庭系ごみ排出量」となっているが、新計画では、「1人1日当たりの生活系ごみ排出量」と表記が変わっているが、何か意図があるのか。

⇒現行計画における「家庭系ごみ」は、国の定義によるものである。新計画においては、岐阜市が「家庭系ごみ」と呼んでいるものを改めて定義し直したため、表記が変わった。

- ・指標としては全く同じものなので、それが分かるように資料に追記する。

●剪定枝の資源化を行うことで、減量の効果があると言われているが、どのように資源化を行うのか。

また、雑草についても資源化は行えるのか。

⇒現在、剪定枝は普通ごみ袋で排出していただいているが、これらは有料化とともに一定のサイズに限って無料回収を行う。回収した剪定枝は再資源化業者で、チップ化して再利用をすることでごみの減量を図っていく。

- ・雑草については、資源化の手法が確立されていないため、研究段階として調査を進めていく。